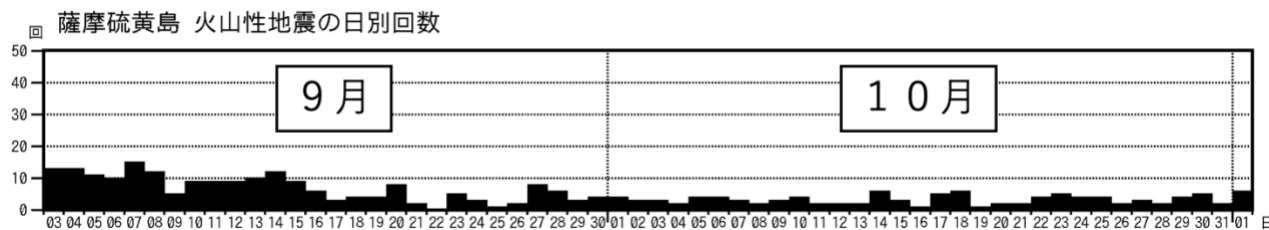


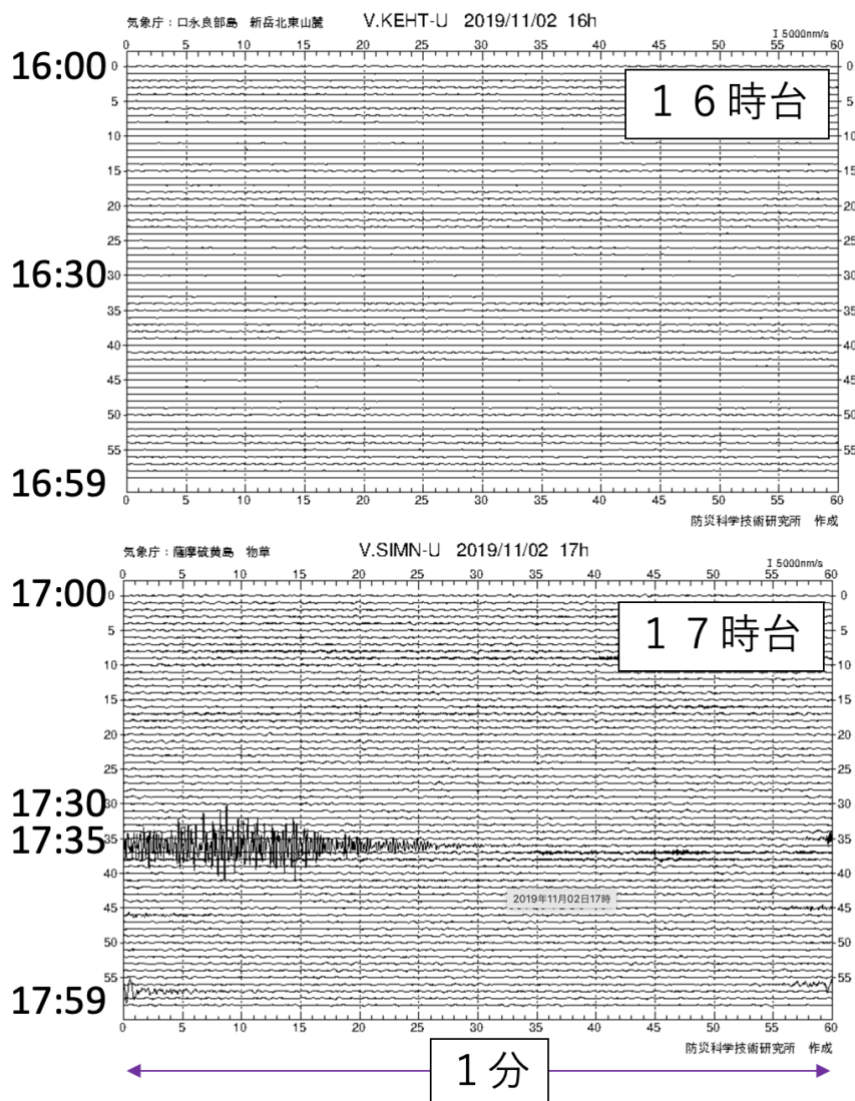
速報：薩摩硫黄島で噴火が発生しました

11月2日、17時35分に薩摩硫黄島の硫黄岳で噴火が発生しました。ただ、この噴火の規模は極めて小さいものでした。どうやらこの噴火では、顕著な前兆現象は存在しなかったようです。

下の図は、2019年9月と10月の硫黄岳周辺の火山性日別地震数で、ここ2ヶ月間は増加というより、活動が低下しているようにも見えました。



また次の図は2日の16時台と17時台の薩摩硫黄島の地震計の記録です。横軸は1分間で、1時間の記録には60本(つまり60分)の記録があります。噴火の直前まで火山性地震は観測されていなかった事がわかります。また現時点では噴火は極めて小規模と言えると思います。





フィリピンで中規模地震が続いています

フィリピン南部のミンダナオ島で中規模地震が続いています。10月31日にはマグニチュード(M)6.5の地震が発生しましたが、29日には M6.6の地震が発生しています。フィリピンはある意味、日本より複雑なテクトニクスとなっており、特にミンダナオ島周辺では過去にも大地震が頻発しています。

最近では 1976 年 8 月には M7.9 の大地震が発生し、およそ 8,000 名の死者が出ています。2010 年 7 月にも連続して M7.3, M7.6, M7.4 と3連発で大地震が発生した事があり、ある意味 2016 年の熊本地震のように大きな地震が連発する特徴があるようです。

フィリピン、特に南部へご旅行の予定のある皆様はしばらくの間、十分な注意が必要かと思います。このような過去の地震の歴史もあり、DuMA/CSO も JICA と JST が初めて協力して行った国際プロジェクト「地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)」のフィリピン地震火山監視強化と防災情報の利活用推進」にグループリーダーとして参加しておりました。

現在はかなり改善していますが、ミンダナオ島はフィリピンの中では政情不安が大きい地区です。このような地域で大地震が発生すると地震をきっかけに、再び政治状況が不安点になる可能性もあり、この点でも現地入りをされる場合には十分注意をお願いします。

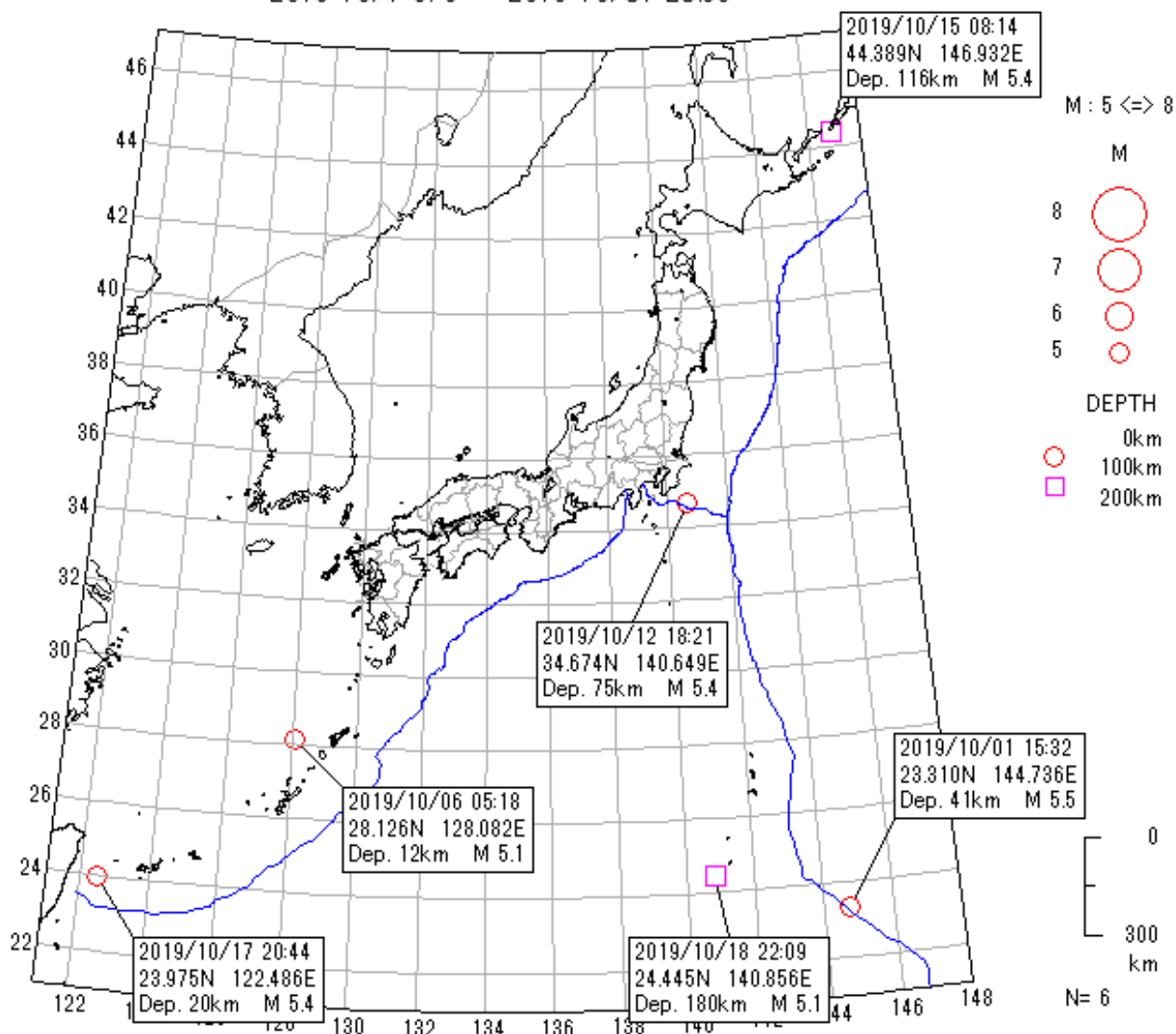
また先週もお伝えしましたが、阿蘇山を始めとする西南日本からフィリピンにかけて、火山活動が活発化しているのかもしれませんが。逆にここ50年ほどの日本が極めて火山活動が低下していた時代であったと考えられ、今後も火山噴火はより日常的に報道される事になると考えています。

2019年10月の地震活動概観

2019年10月には日本およびその周辺海域でマグニチュード5を超える地震は6個発生しました。6月が6個、7月、8月が9個、9月は5個という具合でした。地震活動が基本的に低調な状態が続いている判断しています。



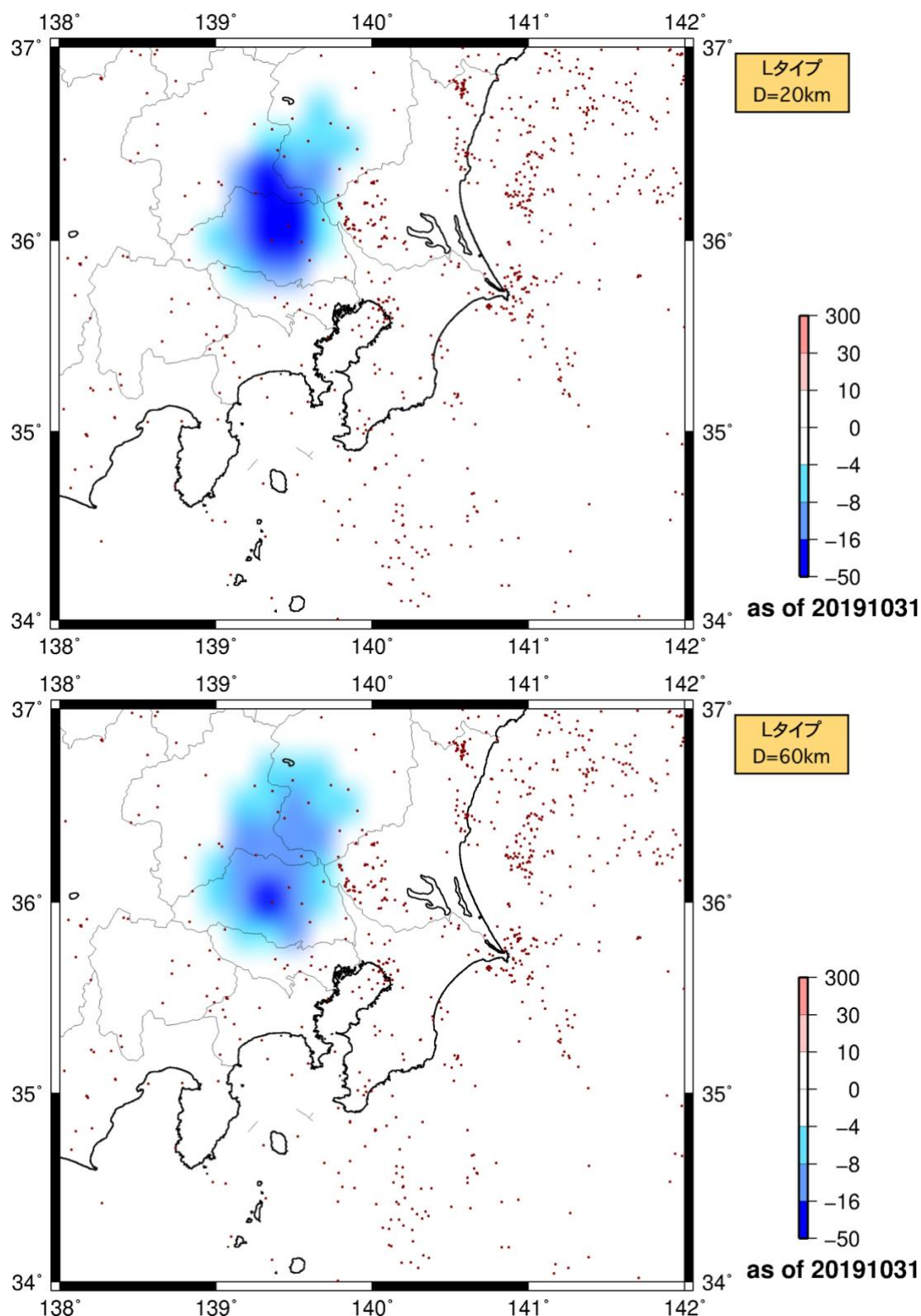
2019 10/1 0:0 -- 2019 10/31 23:59



首都圏の地下天気図®

9月23日の ニュースレターに引き続き、10月31日時点の首都圏に特化した地下天気図です。首都圏は直下にフィリピン海プレート、その下に太平洋プレートが存在し、非常に深い所まで地震が発生しているという特徴があります。今回も前回と同様、20kmと60kmの深さを基準として計算してみました（通常の地下天気図では基準面は地表となっています）。

9月の解析と同じく、L タイプでも M タイプでもほぼ同じ地域に地震活動静穏化の異常（地図上で青い領域）となっています。そのため今週は L タイプの地下天気図をお示しします。



今月も埼玉県を中心とする地域で顕著な異常が継続しているのがわかります。

ちなみに埼玉県では 1931 年に M6.9、1968 年に M6.1 の地震が発生して以来、マグニチュード6を越える地震が発生していないという状況です。